

# 矢作川流域圏懇談会通信

R5 山部会編 vol.1



発行日：令和5年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第66回山部会WGを開催しました！

豊田市にて第66回山部会WGを開催いたしました。今回のWGは、令和4年度の活動成果と今年度の活動目標、テーマ別の活動進捗状況について話し合いました。さらに、流域連携イベント、バスツアー等の報告と協議を行いました。

日時：令和5年5月19日（金） 10:00～13:00  
場所：つくラッセル（旧築羽小学校） 体育館  
参加者：16名（内オンライン参加4名） ※事務局を含む



## ◆主な会議内容

### 1. 令和5年度以降の流域圏懇談会の開催方針・流域圏懇談会について（設立趣旨・規約）

- ・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の流域圏懇談会の実施方針について、『感染対策は個人の選択を尊重し、自主的な取組み』とすることを基本とした対応や、オンライン会議での基本ルールを確認しました。
- ・今年度最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立趣旨・規約等について確認を行いました。

### 2. 令和4年度の活動成果と今年度の活動目標

- ・年頭において、『出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有』を説明し、山部会が取り扱うテーマについて理解を得ました。
- ・第12回全体会議資料（抜粋）より、令和4年度の活動成果について共有するとともに、今後の活動目標について出席者で確認を行いました。

### 3. テーマ別の活動進捗状況の報告

これまでの活動進捗状況及び今度の目標について、各テーマの担当者より報告いただき、意見交換を行いました。

#### ■流域圏担い手づくり事例集

- ・事例集は、これまで山村再生担い手づくり事例集4冊、流域圏担い手づくり事例集4冊の計8冊を作成している。
- ・一昨年度から、都市を巻き込んだ流域圏づくりにつながるプロジェクトを取材対象とし、プロジェクトを支える複数の方に話をうかがって事例集を作成している。一昨年度は学童保育木造化プロジェクトを取材（事例集Ⅲ）し、昨年度は錦二丁目都市の木質化プロジェクトに関する街と山の関係者に取材を行いとりまとめた（事例集Ⅳ）。

#### <事例集Ⅳ「錦二丁目都市の木造化プロジェクト」の概要>

- ・繊維産業の衰退とともに活力を失った錦二丁目、街の復興として力を入れたのが木質化プロジェクトである。
- ・事例集では、本プロジェクトに関わった以下の関係者の取材記録である。

都市	山村（矢作川流域）
・NPO法人まちの縁側育くみ隊 ・都市の木質化プロジェクト ・アーティスト・デザイナー ・愛知県林務課	・旭木の駅プロジェクト ・豊田森林組合

- ・今年度の事例集は、持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体（特に海）に取材を行う予定である。

#### ■山村ミーティング

- ・森林ボランティアの活動においては、ここ2・3年、死亡事故や重大事故が激増している。そのため、水野雅夫氏（Woodsmen Workshop 代表）を講師に招き、講演会「森林ボランティアの安全管理は甘すぎないか？」を行った。
- ・矢作川流域の4つの森林組合（根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合）が、現場技能職員の人材育成に関する合同研修会を行うことになった（7月中旬を予定）。この様な合同研修会は初の試みである。
- ・今年度の矢作川感謝祭は9月9日（土）・10日（日）の2日間で開催する予定である。

#### ■森づくりガイドライン

- ・第4次豊田市森づくり基本計画の見直しについて紹介された。森づくり基本計画は、「豊田市森づくり条例」の目的と基本理念の実現するための長期的な方針「新・豊田市100年の森づくり構想」の基本計画にあたる部分で、5年ごとに見直されている。今回は2023年から2032年までの10年間に行う施策及び数値目標である。
- ・岡崎市の建築物等の木材利用の促進に関する基本方針（案）の変更に関する情報共有を行った。本変更は、愛知県が策定した木材利用促進に関する基本方針（令和4年4月）に基づくものであり、これまで明記されていた「公共建築物」⇒「建築物」、「地元産木材」⇒「市産材」等に変更するなど、より幅広い対象物に、詳細な定義を加えた。
- ・押井町の地域の森 健康診断（5月27日（土））開催を案内した。
- ・水循環基本法フォローアップ委員会の委員12名が、源流から三河湾までの主要箇所を見学したことが紹介された。

#### ■木づかいガイドライン

- ・竹の土木資材への活用事例について、南信州の事例が報告された。南信州においても放置竹林の問題が生じている。山部会では筏の材料やメンマといった食材への利用については共有してきた。今回は、盛土に竹を用いることで強度を補完でき、より急こう配でも盛土が耐えられる事例が紹介された。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### 【流域圏懇談会の開催方針・流域圏懇談会について (設立趣旨・規約)、令和4年度の活動成果と今年度の活動目標】

- 流域圏懇談会の存在意義は、今後整備する治水事業に対して、何らかの働きかけができることではないか。(清水)
  - 認識の通り、行政と地域など関係者において意見交換の場が懇談会である。(事務局)
  - ご指摘の通りであるが、最終判断と責任は河川管理者(国や県)であると思う。(蔵治)
- 地域部会(山・川・海)の活動に連携がないのではないか。(清水)
  - これまでは、流域連携テーマを設けたり、部会連携調整(ミライ会議)を設けたりして、部会間の隔たりを補完している。(蔵治)
  - この議論は県が参加する川部会でしっかり行うべきだ。(近藤)

### 【テーマ別の活動進捗状況の報告】

#### 1. 流域圏担い手づくり事例集

- 今年度は、初めて信州大学の川崎氏が取材に参加された。一言感想をお願いしたい。(洲崎)
  - NPO法人まちの縁側育み隊代表理事の名畑氏の取材をした。この木質化プロジェクトの全体像を把握するのに大変良い機会となった。また、楽しい取材を経験できた。(川崎)
- 昨年度の学童保育木質化に関わった方々にも、事例集交流会があることは事前に連絡し、把握されている。(沖)

#### 2. 山村ミーティング

- 合同研修会に関しては、信州大学の川崎氏にガイドブック、安全技術資料集、人材育成資料集、チェックリストの4冊の資料を作成いただいた。これを軸に森づくりガイドラインを作成できたらと考えている。また、川崎氏の卒業論文にもつながるものと考えている。(丹羽)
  - チェックリストには、様々な内容を抽出したが、厳しすぎても易しすぎてもいけないと思った。そのバランスが難しかった。これらの抽出結果は、これからの矢作川森林ボランティア協議会の中で話し合いながら作成したいと考えている。(川崎)

#### 3. 森づくりガイドライン

- 岡崎市産材の出荷量は1年間で100m<sup>3</sup>という考えか。(丹羽)
  - 木材のボリュームを議論するには、歩留まりという概念があるため難しい。伐採量(原木)が5千m<sup>3</sup>くらいで、歩留まり75%として丸太レベルでは年間2~3千m<sup>3</sup>がせいぜいだと思う。10年間で千m<sup>3</sup>というのは、おそらく製材品のボリュームだと認識している。(蔵治)

#### 4. 木づかいガイドライン

- これまで治山堰堤の工事用道路については、供用後に放棄されて堰堤の先にある森林にはアクセスできない。今回、治山堰堤を超える道が竹の再利用により維持されれば、森林整備の面で意義深いと思う。(蔵治)
- 愛知県では竹を枯死させる実験を行っている。そのような取り組み事例はあるか。(清水)
  - 竹林の分布は、全国各地に及ぶが、著しく多い地域においては活用よりも伐採が優先されると思う。(蔵治)



### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田  
TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、豊橋河川事務所までお送りください。



発行日：令和5年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆小原地区の地域活性化の取り組み視察

今回は豊田市小原地区で進められている、地域ブランディング活動「三河里旅（みかわさとたび）」の活動フィールドを見学しました。

上流域に下流域の人々を呼び込む活動は、“流域を繋ぐ”という矢作川流域圏の取り組みの上でも重要です。三河里旅代表の鈴木様より、小原地区の情報発信方法や取り組みについて、“地域を繋ぐ”活動をご紹介いただきました。

日時：令和5年5月20日（土） 9:00～12:00

場所：小原交流館、市場城跡

案内：鈴木孝典氏

参加者：20名（事務局を含む）



### ◆フィールドワークの記録

#### ① 三河里旅の活動紹介（屋内での講演）



■重要コンセプト  
地元の人しか知らなかった、  
ニッチでローカルなコミュニティ体験を通して、  
人と人が深くつながれる旅行を目指す。

- 意識すること
1. 地域と人の個性を最大限に活かす。
  2. 地域と人のファンになってもらう。
  3. 地域と人の個性を磨きあげる。
  4. 地域経済循環を意識し、地域の持続を目指す。

魅力的で唯一無二の持続可能な地域づくりにつなげたい！

現地見学の前に、会議室で三河里旅について説明いただきました。

三河里旅では旧小原村を拠点として、地元の人々の個性を生かし三河の里山のディープなローカルツアーを紹介しています。外部の方に旅をしてもらうことによって、三河の山里のより個性豊かな地域づくりにつながるそうです。

#### ② ローカルツアー体験「知ると楽しい 山城を知ろうツアー！」



様々なツアーのうち、小原地区の山城をめぐるツアーをご案内いただきました。小原地区にある市場城をふもとから歩いて登り、戦の時に重要な場所などのレクチャーをしていただきました。



頂上付近にある見晴らし台や、山頂までの切り立った通路を巡りました。見晴らし台は眺望が効き、敵軍の動きがよく見えたそうです。また、両側が切り立った通路では、攻め込んでくる敵を一網打尽にするために敢えて作ったことなどを教えていただきました。

#### ③ 地域の情報発信「おぼらのじかん」

小原地区では、小原地区での暮らしの魅力や特徴をお伝えすること、I・Uターンを促進することを目的に、小原暮らし通信誌「おぼらのじかん」を発行されています。小原地区の催しや小原地区の情報が紹介されています。

おしゃれな女性誌のような雰囲気に誌面を仕上げることで、女性が手に取りやすく、小原の住みやすさや新たなライフスタイルが伝わるように工夫されています。また、小原地区外の方や、就職などで地元を離れた若者たちに「小原地区で暮らしたい」と感じてもらうことも目的としています。

このように、小原地区に興味を持つ地域外の方との繋がりを作るほか、小原地区を出られた方とも繋がり続ける“ツール”となっているようです。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、豊橋河川事務所までお送りください。

